

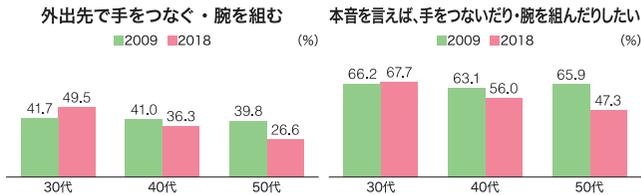
平成の夫婦関係スタンダード 総決算 2009 ⇒ 2018

年代差は顕著に、欲望は希薄に。で、愛はどうなの？

スキンシップは？ ケンカは？ セックスは？ 赤裸々な夫婦関係の今をとらえて、特に「マスコミ受け」したのが、リビングくらしHOW研究所が2009年に行った「ニッポンの夫婦関係スタンダード」調査だ。

それから9年半。東日本大震災を経て、スマホの急速な普及、働き方改革など、社会は大きく変化した。その変化は、もっとも小さく、もっとも基本的な社会の単位である「夫婦」のかたちにも影響を与えたのではないかと。平成時代の総決算として、ニッポンの夫婦の関係を30代・40代・50代の女性のデータから再考した。

1. 外出先で手をつなく、腕を組む



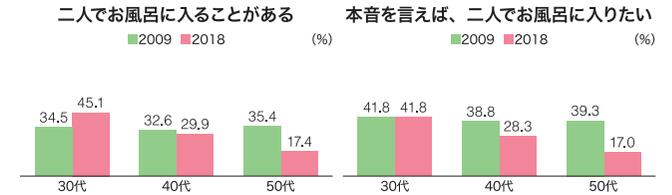
2009年に外出先で手をつないだり、腕を組んだりしていた夫婦は40%前後あり、年代での差はほぼなかった。ところが2018年、外出先で手をつなく、腕を組むことがある夫婦は、30代ではほぼ半数いるものの、40代では3分の1に、50代は4分の1に、減っていく。

「本音を言えば、手をつないだり、腕を組んだりしたい」も、2009年には年代による変化は見られなかったが、2018年では、年代が上がるにつれ、10ポイントずつ下がっていく。

ただし、現実には「つないでいる」人より、「つなぎたい」と思う人が20~25ポイント多い傾向は同じ。想いの差分は変わらないようだ。

調査概要	2009年	2018年
	「ニッポンの夫婦関係スタンダード調査」 調査期間：2009.2.5~3.1	「夫婦関係についてのアンケート」 調査期間：2018.10.3~10.8
	調査方法：「えるこみ」等でのWEBアンケート 集計数：配偶者のある全国の女性6085人(平均年齢：39.6歳)	調査方法：「リビングWeb」「シティリビングWeb」「あふんWeb」でのWEBアンケート 集計数：夫と同居している全国の既婚女性1263人(平均年齢：44.6歳)
	年代分布：20代13.1%、30代43.9%、40代27.0%、50代11.7%、60代4.2%	年代分布：20代8.6%、30代30.9%、40代28.6%、50代19.1%、60代以上12.8%

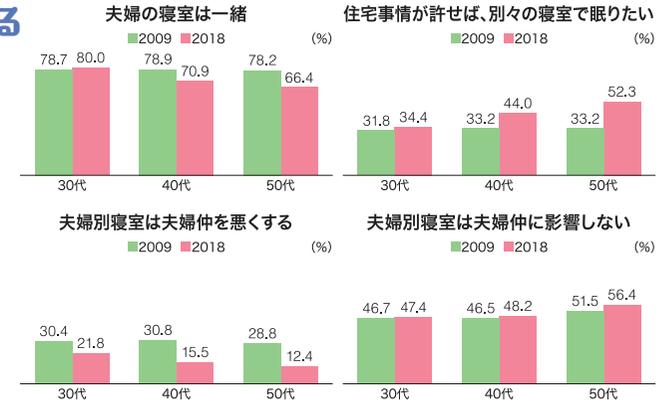
2. 一緒にお風呂に入る



夫婦で一緒にお風呂に入る人の割合も同様だ。2009年には、夫と一緒に入浴することがある妻は年代を問わず、35%前後。「本音を言えば一緒に入りたい」という人は4割前後。

2018年になると、30代で一緒に入る人の割合は45.1%と、9年前に比べて10ポイント以上高い。しかしその後は割合が減り続け、40代は29.9%に、50代では17.4%にまで下がる。また、「一緒に入りたい」と思う人も、歳を重ねるごとに、大きく減少。入ることがある人と入りたい人の差もあまりない。

3. 同じ寝室で眠る



この数年で、「質の良い睡眠」の価値が、広く浸透したことも影響していそう。2009年には、同じ寝室で寝ている夫婦は約8割。「別々の寝室で眠りたい」という意向は全体の1/3程度で、年代による変化はほとんどなかった。しかし2018年では、40代で70.9%、50代では66.4%と、同じ寝室で眠っている人は減少する。「別々の寝室で眠りたい」という意向も、年代と共に上昇し、

50代では52.3%に達している。

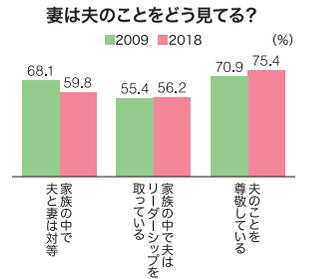
寝室を分けることが与える影響についても聞いたところ、分けることが「夫婦の仲を悪くする」と答えた人は、2009年には3割を占めたのに対し、2018年では最も多い30代でも21.8%にダウン。さらに50代は「夫婦の仲を悪くする」は12.4%に過ぎず、「影響しない」が56.4%と半数を超えた。

“夫と妻は対等”は、ややダウン。 でも、頼りにする気持ちは変わらない

夫自身、また夫婦の関係は、妻からはどう見えているのだろうか？

「家族の中で夫と妻は対等だと思うか」という質問に対し、2009年は「思う」と答えた人が68.1%いたが、2018年には59.8%にダウンした。今回の回答者の専業主婦率は、2009年が56.4%、2018年は42.1%。外で働く妻は14ポイント増えている。ここ数年で夫の家事・育児参加率は高まる傾向にあるが、働く妻の負担感を減らすには至っていない。家庭内でのパワーバランスは9年前よりむしろ不安定になっているのではないかと。

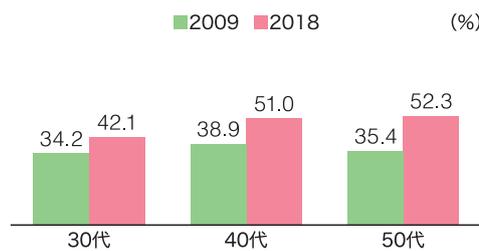
ただし、「夫のことを尊敬している」妻は、2009年の70.9%から75.4%へと増加。「家族の中で夫はリーダーシップを取っている」と答えた人の割合も変化はない。家族を支える、頼れるパートナーとしての夫の位置づけは、揺らいではいないようだ。



4. セックスレス



自分達夫婦はセックスレスにあてはまる

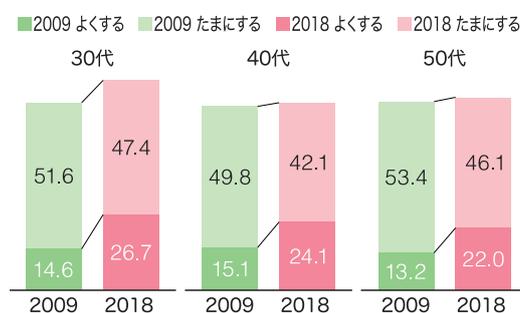


セックスレスの夫婦も、この9年間で増加した。自分たちがセックスレスだと考えている人は、2009年には40代で38.9%とやや多かったものの、30代・50代は35%前後にとどまっていた。しかし、2018年のデータでは、30代でも42.1%、40代、50代になると半数を超えるまでに増加する。

5. 夫婦ゲンカ



夫婦ゲンカの頻度



※夫婦ゲンカをする頻度を聞いた質問は2009年と2018年とで選択肢が異なったため、下記のように整理した。「ほぼ毎日」「週に1~3回くらい」「月に2~3回くらい」⇒「よくする」、「月に1回くらい」「年に数回くらい」⇒「たまにする」、「ほとんどない」⇒「ほとんど・まったくしない」

夫婦ゲンカの原因(5位まで)

30代			
2009 (%)	順位	2018 (%)	順位
夫の生活態度 23.6	1	夫の生活態度 52.1	1
夫の性格 18.3	2	夫の性格 38.2	2
子供のしつけ・教育 17.3	3	子どものしつけ、教育 30.5	3
お金のこと 16.2	4	お金のこと 27.4	4
自分の性格 12.5	5	家事のこと 27.2	5

40代			
2009 (%)	順位	2018 (%)	順位
夫の生活態度 21.5	1	夫の生活態度 42.1	1
子供のしつけ・教育 21.5	2	夫の性格 35.7	2
夫の性格 17.6	3	子どものしつけ、教育 29.1	3
お金のこと 16.4	4	家事のこと 23.3	4
親のこと 11.7	5	自分の性格 22.7	5

50代			
2009 (%)	順位	2018 (%)	順位
夫の生活態度 18.3	1	夫の生活態度 44.0	1
夫の性格 15.4	2	夫の性格 38.2	2
子供のしつけ・教育 14.3	3	お金のこと 24.1	3
お金のこと 14.0	4	家事のこと 22.0	4
親のこと 8.8	5	親のこと 16.6	5

2009年と2018年では、ケンカを「よくする」人の割合が10ポイント前後増えている。ただしその分、「たまにする」が減っており、両者を足した数字は、2018年の30代が多い(計74.1%)ことを除くと、いずれも65%前後。調査時期・年代による変化は少ない。

ケンカの原因を見ると、こちらも調査時期、年代によらず、「夫

の生活態度」が1位。「夫の性格」「子どものしつけ・教育」「お金のこと」も多く挙げられた。2018年で注目したいのは、いずれの年代にも「家事のこと」が上位に入った点。夫の家事参加が多少なりとも進んだことによって、「家事のこと」が夫婦の間で話題にもなり、ケンカの種にもなっているのではないだろうか。

恋するころを過ぎてても…強まる“同志の絆”

2009年からの9年半の間で、夫婦のスキンシップの頻度は減り、セックスレスは増加した。また、2009年の時点では、歳を取ってもあまり変わらないように見えた夫婦の関係が、年代と共に、より淡泊に、熱量を減らす形で変化していく様子も見て取れた。

「あなたにとって夫はどんな存在か？」という質問の答えからは、年代が上がるにつれ「恋人」という甘い関係が薄れていくことがわかる。だがそれ以上に、全年代で、「恋人」「友達」を選ぶ人が減り、代わりに「同志」が増えた点に注目したい。

平成最後の10年、百歳まで想定が延長された未来の暮らしを支えるため、夫婦で稼ぎ続け、家事も子育ても2人で行うことが、求められるようになった。また、次々と襲い掛かる自然災害に、団結して家族を守る必要性を実感した夫婦も多かっただろう。

甘い気分や仲の良さは時代と共に減ってきたが、絆が希薄になったとはいええない。来たるべき次の時代(多分、厳しい時代)に、手を携えて立ち向かっていく、力強い夫婦像がおぼろげながら見えてきた。

あなたにとってあなたの夫は、「夫」以外のどんな存在？

